

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391000019	
法人名	社会福祉法人 愛誠会	
事業所名	グループホーム心	
所在地	岡山県新見市唐松1749-2	
自己評価作成日	平成31年1月22日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成31年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員・利用者の方というかきねを取り払い、同じ空間を共有する生活者としての視点を忘れず、日々の関わりの中で同じ景色・季節を感じながら、真剣に向き合う中でご利用者の心の声・思いを引き出し支援に繋げている。失語の症状がある方が多い中で、その人の生きてこられた人生に思いをさせ、気持ちを推測したりくみとろうとする姿勢を大切にしている。ご家族の方とご本人らしさについて共有しながら、ケアの方向性について一緒に考ええあう関係づくりに努めている。どのような認知症の症状があっても、私達スタッフが心を傾けその人を理解しようと努め、自立支援・生きがいを創りだし広がりのあるケアを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この法人の基本理念「高齢者を支え社会貢献を・地域のニーズに応え共に繁栄する」を、正に具現化した事実が今日、出会った。一つは「職員、特に女性や高齢職員が働きやすい条件を整える事・人材育成強化」が確実に日々積み重ねられている事。そして「ある男性職員の働き方・働きぶりが、今の社会のあり方を先導する姿を示してくれた事」である。職員不足等、介護・福祉を思うと、えてして気が滅入りそうになるが、今日の訪問で私の心は「こんな施設もあるんだ」と俄かに明るくなった。改めてホームのリビングや居室等に入らせてもらうと、新しい発見や再確認した事もあった。各居室が他のホームよりかなり広い事は以前から認識していたが、目の前の利用状況から「ホーム設計以前に掲げられた理念が、ここにこうして活かしている」と確信した。心地良く聞こえてくるAさんと男性職員のハーモニーや話し声・各テーブルで繰り広げられる食事の下拵えや作業の合い間に聞こえる笑い声が法人創始者の想いを改めて深く感じ入る一日となった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理念を共有してそれをふまえた上で、会議等で掘り下げて目標設定を行い、日々のケアへと繋げている。チームでだした目標については事務所に掲げ意識し職員間で共有している。	法人としての基本理念と同時に職員の行動理念である「ご利用者が喜ぶことを一生懸命に！」を掲げ、これに沿った仕事を自ら主体的に考え実践している。具体的にはそれぞれの人の機能維持を目標にして、例えば「天気の良い日に長生き地蔵へのお参りを」等につなげている	法人の理念の共有と実践がこれ程職員全体に綿密に行き届いている所は少ないのではないかと思われる。居室のあり方ひとつを見ても先をしっかりと見通した計画が「今」を築いている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各種団体と様々な形で交流が続いており、施設全体が地域住民の憩いの場、研修の場、イベントの場となっている。年に2・3回地域の方に来て頂き一緒に料理等行い交流を図っている。	運営推進会議・行事企画書・家族へのおたよりの他、各種記録から法人とこの地域のつながりの広さや深さを十分知る事が出来た。まさに地域密着型サービスの大きな目標を日常的に実施・達成していると言えるだろう。地域にとっても無くてはならない存在となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア等取り組みについて、地域住民やご家族に対して実践報告会を、年2回開催し、ケア内容を公開するとともに、認知症に対するケア方法を還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所から会議のつど、取り組んでいる内容がわかる事例を報告して、参加メンバーの方に意見・質問等を頂き、さらなるケアの向上に努めている。	運営推進委員として民生委員・地域の方々や家族の代表、市の担当者が参加してホームの状況や行事の報告及び家族や地域からの提案等を協議している。常に協議事項も多く、運営推進会議として有意義な取り組みが出来ている。	運営推進会議の協議事項で、なかなかリスク面の問題を積極的に提案し話し合う場面が伺われないが、この会では家族との話し合いの記録も見られ、この会議の本来の目的を達成出来ているので全家族にも積極的に伝えて欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回、新見市高齢者支援課の職員に出席してもらって、各委員の情報共有や情報交換、地域との連携状況等市としての意見を求めている。	法人として市町村との連携や協力関係は日頃からよく築かれているので、ホームとの直接的な連絡や情報交換は、定期的に行っている運営推進会議で行っている。但し医療連携会議等に関しては研修その他必要な情報を伝えてもらったり、話し合いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで外出される利用者にはさりげなく声をかけたり、一緒に外出し安全面に配慮している。ご家族の方にもご本人の状態と生活するうえでのリスクについて、その都度話し合う機会を作っている。。	居室のベッド柵が気になる時は量対応を考える等、身体拘束につながらない工夫をしている。身体の拘束だけでなく、心の拘束や日頃使っている言葉についても不適切な対応がないか話しあったり学習をして利用者や家族の尊厳に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で高齢者虐待防止法などについて学び、理解できるようにしている。また職員の言動が心理的虐待にあたることのないように、禁止用語を貼りだし自分自身振り返るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用された方が入所されているため、新しい職員が入るつど理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は法人の職員と管理者が、重要事項説明などを行っている。事業所でできること、できないことなどの説明や、時間をとり質問等をうけながらこちらの方針を理解して納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の変化など電話やおたよりで伝えたり、面会時にも話しをする機会をつくり、その中でご家族の方の思いを引き出せるように努めている。その中ででの要望・意見を反映できるようにしている。	「毎月の様子について」のおたよりで体調や日常生活の様子・行事等、写真も交えて丁寧にお知らせしているため、家族は安心出来ると思う。職員の立場から気になっている点も伝えていて、とても良いと思う。	年1回の家族会の楽しそうな様子が記録から伺われた。13人もの家族の参加があり、親睦が図られた事と思う。継続していく事で次のステップにつながるに違いない。家族同士の話し合いの中に、運営推進会議で話題になった事等少しでも加えられると良い。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会、両立支援委員会において協議され提案された意見や改善点について、全体に周知するとともに幹部会議に提案し規則への反映等行っている。	ホームが開設される以前から踏襲され続けている法人の理念に「職員を大切に育てる」が掲げられ、「その為の仕組みとして委員会等を通して上層部につながるルートが定められていて綻びはない」という管理者の話と、各種関連資料からよく理解出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職場内研修を年2回30講座程度企画し、実施している。さらにキャリアパス制度を就業規則において定め、職階と問われる能力、必要な資格及び給与への反映が明確に示されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初級、中級、上級別に研修を行い、それぞれのレベルに応じた指導・教育を行っている。日々のケアの中で、その都度利用者の方の行動・様子より考える機会を設け、認知症の方の理解に繋げていけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修に積極的に参加させると共に、法人内の他施設研修にも参加しながら、モチベーションとケア内容の向上を推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接でご自宅に伺い、ご本人が生活されている環境・生活歴を知ることが大切に行っている。そこでこれまでの経緯などゆっくり時間をとり、ご本人・ご家族との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にはいつでも気軽に施設に来て頂けるような関係作りに努めている。不安や疑問に思うことなどしっかりお聞きしながら、支援の方向性など話しをするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況等を確認しながら、利用開始までに何度か話しをする機会を作りながら、必要なサービスにつなげていけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方と共に行い、同じ時間を共有することを大切にしながら支援している。職員も昔の習わしや風習・野菜作りなど教えて頂く機会をもっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の方の小さな変化など日頃の様子を細目に連絡したり、面会時等にゆっくりお話しする機会を作り、ご本人の思いについて話しをし、できるところは協力して頂き一緒に支えあう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされてきたことや、馴染みの人等との関係が継続していけるように努めている。なじみの美容院へ定期的にいかれている人、家族に協力して頂き親戚・知人とのつながりを大切にしている。	法人のデイに通っている夫の利用日に合わせて定期的に会える機会作りをしたり、正月に県外の息子宅へ外泊する等、馴染みの人との関係継続を支援する他、敬老式典に参加した時、知り合いの人から声をかけられ喜ばれる場面もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性・認知症の進行状態等を把握できるようにしている。その時の状態で違うためご利用者同士の様子を観察しながら、職員が意図的に介入したり注意深く見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方についても、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境・支援の内容や注意が必要な点等について情報を提供し、連携に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人が言われる単語・表情から思いを感じ取れるよう努めている。失語の症状が進行してきた方には、生活歴・性格等の情報やご家族の方の意見を参考にして推測しながら検討している。	「墓参りに行きたいんじゃないけど、誰も来てくれんのかな」と涙ぐむAさんの心情を察した職員が家族に連絡し、面会に来てもらったというエピソードを聞いた。本人の表情や様子から、意向を推測したり、不安・寂しさ等を感じ取り安心できるような対応を心がけている。	介護支援記録の様式には「本人の思い・気付き」欄があるが、日々の記録を見ても記述が少ないと感じるので、この欄をもっと有効に活用する方法を職員間で話し合ってみて下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や、馴染みの暮らし方などについて、ご家族の方にその大切さ・必要性を伝え理解して頂いたうえで、しっかりと情報を頂きご本人の全体像を知ることができている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、その日によっても状態が違うため、細かく観察を行い情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろよりご家族の方と連絡を密にし、日々の関わりの中からご家族・ご本人の要望を引き出せるようにしている。そして、それぞれの意見を反映したうえでカンファレンスを行い介護計画書を作っている。	法人の行動理念「ご利用者が喜ぶことを一生懸命に！」にあるように、楽しみの持てる生活への実現に向け、一人ひとり生活の中で役割を持ち、精神的ケアを中心にした「楽しみにつなげるプラン作り」を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況・小さな変化・ご本人の様子等について、個別的に記録を残すことで、職員間での情報の共有に努めている。その情報からケアの見直しを行ったり、介護計画書に反映をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援に対して、柔軟に対応している。家族の方で高齢で一人暮らしの方はその方の体調面や不安なことなどその都度話をきいて必要により助言等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、利用者の方が柔軟に活用でき、これまでとかわらずに地域生活者として生活が継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からかかりつけ医へ毎月通院介助を行い、ご本人にかわり状態等をお伝えしている。専門医の受診や、急変時の受診等家族に同行してもらい体調管理に努めている。	本人・家族の希望する医療機関に受診してもらっており、職員が同行しているが、専門医への受診時には家族と病院で待ち合わせる事もある。緊急時には法人特養の看護師の協力やアドバイスもあり、日頃から医療と介護の連携がよく取れていて心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士で判断できないような場合、唐松荘の看護師に相談し助言を受けることがある。日々のカンファレンスの中でも小さなことでも相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、認知症の方であるため気を付けてほしい事等細かいことを書面等で伝え連携を図っている。入院中にも病院に訪問して、関係職員から回復状況等情報の交換を行いながら、退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ該当者がいないが、ターミナルケアに関する指針に限り、可能な限り支援する方針である。	重度化や医療が必要になった場合は、特養への移行や医療機関への入院となるケースが殆どであるが、現在はターミナル期の人はいない。本人・家族の希望があれば関係者とよく話し合い、出来る限り支援していこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や消防署の協力を得て救急手当や蘇生法の研修を実施し、事故発生時に対応できるようにしている。特養の方の事例をお聞きし情報を共有できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月特養と合同による夜間を想定した避難訓練を行っている。又特養と一緒に水害を想定した訓練を行った。地元の消防団の方に協力して頂き、放水訓練を特養の方と合同で行った。	運営推進会議でも話し合っているが、緊急時には指定福祉避難所になっている特養「唐松荘」を地域の人に開放している。事務所に担架も常備しており、避難口も複数あり、屋外消火栓、消火器の場所、避難経路も分かりやすくホーム内に掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の自尊心を尊重して、関わりが必要な時にも本人のプライドを傷つけないようさりげない言葉かけを行い、ご本人の立場にたち配慮した対応を行っている。	認知症の方の尊厳を大切にしたいとの思いから、「徘徊・帰宅願望」等の用語の見直しを図り、職員同士でも使用しない事とし、家族への説明時にもその言葉を使わないように取り組んでいる。また、居室にトイレが設置してあるので羞恥心やプライバシーへの配慮は出来ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がきめるのではなく、一人ひとりに合わせた選択肢を用意して、選びやすいような働きかけをしている。また意思表示が困難な方には、表情や反応を見ながら自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調・気持ちの状況にあわせて、本人のペースで生活して頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれな方も多い為、ご本人の意向を大切に支援している。外出や行事など、上着などいくつか用意して選んで頂き楽しみに繋げている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の体制の事やご利用の方が重度化され食事形態のほぼ半数がミキサー食になった事等より、特養の調理さんに作って頂いている。誕生日会等行事のある時には、ご利用者の方と作り楽しい機会作りに繋げている。	リビングではエプロン姿の人達がお茶の袋詰めやもやしの根切り、ご飯をお茶碗に盛り付ける等、それぞれの役割があり、楽しそうにお手伝い。私達も大きな掘りごたつで利用者と一緒に食事をいただいたが、お茶を勧められたり話に花が咲いたり、楽しく食事をした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立をもとに栄養バランスは確保できている。食事量のチェックや、水分量の少ない方は好みの飲料を工夫している。食事の摂取量が少ない方栄養士の方に相談しながら助言を頂き支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じた口腔ケア(うがい、義歯洗浄、歯磨き)を行っている。毎日ポリドントによる義歯洗浄、うがいをを行い口腔内を清潔に保ち嚥下障害の予防に努めている。うがいのできない方は緑茶を飲んで頂いたりして清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれ周りをみたり、どこかへ行こうと立ち上がった時、ご利用者の方の様子から察知し、さりげなくトイレ誘導している。尿意のない方にも日々の記録から排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を促している。	排泄が自立で布パンツの人は2名。他の人はリハビリパンツにパットを使用している。各居室にトイレがあるので職員と一緒に行って排便の状態等を確認しているが、今のところ排泄に関して特に困っている人はいないと聞いた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの消化機能の状態の把握、体操、ゲーム、散歩などの運動、飲食物の工夫を行い便秘予防、解消に努めている。必要により栄養士の方にも相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や好みの温度などあり、その方に合わせた入浴方法をおこなっている。その日の体調や気分・ご本人の希望にあわせて支援している。	高齢の為、二人介助でシャワー浴の人はいるが、殆どの人は浴槽に浸かりゆっくり入浴出来ている。浴槽には入れるが出るのが難しいという場合、シャワー浴に変更する事もある。基本は週2日としているが、本人のその日の気分に合わせて流動的に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切に、その時々体調や状態に合わせて、ゆっくり休息したり気持ちよく眠れるよう支援している。不安・寂しさが大きい人にはできる限りそい寝をしたり、安心できるケアに努めている。音・光にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬について把握できるように写真つきでファイルに情報をいれ薬を用意する前に2人で確認をしている。薬の変更があった時には必ず連絡簿に記入し、副作用について伝え変化を気をつけていけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力に応じた役割を持っていたり、生活の中でご利用者の力が発揮できるように支援している。ご本人の生活歴等の情報により選択しを用意して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分に応じて散歩や買い物等出かけている。又、季節を感じて頂けるような外出の機会や、ご家族の方に協力して頂き親戚の家や地域のなじみの方と会う機会作りにつなげている。	五感を刺激する機会を多く作り、外気に触れる、花を愛でる等を始め、法人の敷地内にある長生き地蔵へはよくお参りに行っているし、イベントへの参加や生け花教室等、散歩を兼ねて法人施設にはよく出かけている。家族の協力もよく得られており、自宅・墓参り・写真館へ等、個別の外出支援にも力を入れている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方の理解・協力があり、少額のお金をもっておられる人もいて、売店や外出時お金を支払うことで社会性の維持に繋がっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状についても、字がかけない方でも、スタンプ等を使用して、家族との繋がりをやりとりが継続できるように支援している。ご家族の方の誕生日に一緒にお祝いカードを作りお渡しをした方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間のリビングは、ご利用者の方と一緒に季節を感じて頂けるような壁紙作りを行い飾っている。ゆったり座れるソファや和室など、思い思いの場所でリラックスして頂けるように支援をしている。	リビングの椅子やソファ、畳コーナーにある大きな掘りごたつで、塗り絵やおしゃべりをしたり、みんな仲良く食事をしたりと、それぞれお気に入りの場所や気の合う仲間同士で楽しい時間を過ごしている。天気の良い日はウッドデッキも大活躍。日の当たる窓辺のテーブル席から職員と利用者の素敵な歌のハーモニーがいつまでも聞こえていた。	今の利用者の現状をしっかりと把握し、視線・光など刺激の少ないもっと落ち着ける場所作りを考え、いろいろ工夫し、リビングの環境の見直しをしている様子が書類から伺う事が出来たので、今後の環境整備にも期待している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の性格や気分に合わせて一人で過ごしたり、大勢で過ごせたりできるようにしている。最近環境面を見直し、和室を活用してゆったり過ごせるような居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族にお願いして使いなれた家具などもってきて頂くようにしている。居室の中に自宅の写真や、ご家族の方の手作りの小物など飾っておくことで、家族とのつながりを感じられ安心感に繋がっていただけるように支援している。	居室はゆったりとした広さがあり、馴染みの家具や調度品を持ち込み、さながら自宅の居間を再現したような造りになっている。近頃は居室で過ごす時間が多いというAさんの居室を訪ねると、好きなテレビ番組を鑑賞中だったが、素敵な笑顔で思い出話をしてくれた。各居室の入り口にチャイムがあるのも嬉しい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境等についても、ご本人の状態にあわせて、足元がふらついてもつかまりながら移動できる家具の配置など、本人・ご家族と相談しながら、安全な環境づくりに努めている。		